



執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

都政と東京25区 より近く

都民ファーストの会 森村代表に期待高まる 昭島の内山都議は子ども政策・教育改革担当本部長

都民ファーストの会」の代表に森村隆行都議(49) 〓青梅選挙区(定数1) 選出〓が就任したことで、地元では「小池都政直結で地域の声が届けやすくなる」と期待の声が出ている。内山真吾都議〓昭島選挙区(同1) 〓が選挙対策本部長と子ども政策・教育改革担当本部長を任されたことも東京25区にとっては好材料、「これを機会に多摩格差の是正が進めばいい」との希望も広がる。ただ、森村体制の試金石となる来春の統一地方選については多摩地区での公認候補の擁立が遅れているのも事実だ。

森村代表は、世界有数の競争力を持つ東京の活力をいかに活かすかは都政にかかっている。未来につながる良い仕事をしていかなければならぬ」と決意を示した。森村代表は、東京都議団の政調会長代理、党の幹事長代理などを歴任する中でも、地元青梅市、西多摩を理解し、目を向けてきた。今後は代表の立場で時間的には地元での活動が限定されることになるが、都政と青梅、西多摩をより強く繋いでくれるだろう。

青梅市議会の市民フォーラム青梅は、2021年の都議選で森村代表を支援した。同会派の会長を務める片谷洋夫市議は「森村都議には青梅市の様々

青梅、西多摩のステップアップにつながる

改革保守を標榜し、声を上げ、行動する政治団体として存在感を増している青梅の未来をつくる会も森村代表を全面支援し、再選への原動力になった。宮崎精一代表は「大いに期待している。森村氏は党派に関係なくよく意見を聞き、実行力もある。

青梅、西多摩のステップアップに必ずつながると思うので、青梅市民の皆さんには応援していただき、声も届けてほしい」と話している。

こうした中、11月7日に候補者公募を発売。都民ファーストの会の基本政策に賛同し、東京大改革を共に進める人材を募っている。

東海大学菅生高等学校 同窓会 『菅生川蝉会』

川蝉会は東海大学菅生高等学校の建学の精神に則り、会員相互の親睦を図り、併せて母校の発展に寄与することを目的としています。

事務局 学校法人菅生学園内 担当:近藤英一
〒197-0801 東京都あきる野市菅生 1468
TEL.042-559-0066 (代表) / FAX.042-559-0577

落葉を主題に自然の懐の深さを科学的に、情緒的に解説



落葉を主題に自然の懐の深さを科学的に、また情緒的に語る橋上さん

羽村市川崎の宗禅寺で11月19日、土曜講座が開かれ、元学芸大附属小学校教諭の橋上一彦さんが「木々の不思議を探る」と題し、木々のかたち、しぐさには深い意味が込められており、とし、落葉を主題に自然の懐の深さを科学的に、また情緒的に語る橋上さん

「木々の不思議を探る」橋上一彦さん講演

橋上さんは、「自然の顔に教科書の文句は書いてない」との物理学者の寺田寅彦の言葉を紹介。「きょうの話は私が学んだ内容からの推論または解釈です」と断りを入れ、秋になると葉が落ちた理由を解説した。

葉を落とすのか、葉が落ちる瞬間を予測するのは現在の科学でも落葉をもたらす要因があまりに多く不可能とばかりに、原因は葉柄の付根と茎の境にある離層の細胞が酵素によって解かされることで落ちると解説。「木は葉で陽の長さ、短さを知らず、何か物質があるのだから、説明されていない」と付け加えた。



※「如是我聞」では土曜講座を連載でレポートします。

合成のほか、根から吸い上げた水分を葉の気孔から蒸発させる働きがある。寒さが厳しく水分を十分に吸収することができない冬に葉を落とすのは、水分不足で枯れてしまわないため、植物にとって、能動的な作業だといわれる。また、葉にたまった大気中の汚染物質や老廃物を捨てて、リフレッシュし、生き返っているとした。

東京25ジャーナル・高校同窓会かわら版

東海大学菅生高校 菅生川蟬会 第4号

合唱部(部員15人)はNコンなどの大会を

地域や人と繋がり、音楽を共に楽しむ

合唱部顧問 12期生 村越大春さん
27期生 池田真実さん



目指し、音楽性を追求する一方、地域や人との繋がりを大切に、音楽を共に楽しむと活動に励んでいる。秋川流域合唱祭への参加、周辺の福祉施設でのコンサートなどに積極的に取り組んでいる。12期生で音楽科教諭の村越大春さんと27期生で国語科教諭の池田真実さんが顧問を務める。

合唱部のカラーが凝縮されたものが、村越さんが始めた「合唱de歓喜」演奏会。世代を越えて第九をみんなで歌おうというもので、11回を数える今年は12月25日に秋川キララホールである。ピアノ2台によるフランツ・リストの編曲版の第九が呼び物で、東京芸術大学の同窓となる指揮を村越さん、ピアノを佐野隆哉さん、有吉亮治さんが担当。4人のソリストを含め菅生学園



音楽の楽しさを広げ、伝える日々を歩む 村越さん(右)と池田さん

初等学校の児童から80歳代までの80人が合唱する。

村越さんはオペラ歌手として活躍していた13年前、音楽科教諭として赴任。前任者寺沢直樹氏が指導していたあきる野市民合唱団のも引き継いだ。「合唱de歓喜」は同市民合唱団と菅生高校合唱部などが参加して第1回が開催できた。「地域や人との繋がりを大切にしてきた合唱部のネットワークが土台になった」と村越さんは振り返る。

2、3年次に村越さんの授業を受け、合唱部でも薫陶を受けた池田さんは、専修大学文学部日本語学科で学業に打ち込む傍ら、アカペラサークルや市民合唱団に席を置き、歌はいつも隣にあった。7年前に国語科教諭の採用があることを村越さんから知らされ、新卒で着任した。

2人は地域や人との繋がりを肌身で感じながら音楽の楽しさを広げ、伝える日々を歩んでいる。

ラグビー一筋の青春

菅生で始まる 岩代大輝さん

14期生の岩代大輝さんは「ラグビーをやりたくて菅生高校に入学した」と、ラグビー一筋の青春時代を振り返る。東海大では主将を務め、ヤマハ発動機に入った。ラグビーで培った「挑戦とあきらめない精神」で今は会社経営に力を注ぐ。

幼稚園でラグビースタイルを体験。楽しいと感じたが、その後、狭山市に転居してからは、小中学校と機会がなく、野球、水泳、バスケなどで活躍した。中学で進路を考えるころ、入間市に転居。高校ではラグビーをやりたいと思っていたことから、強豪高となっていた菅生を選択した。

と東京代表を争った。だが、決勝で跳ね返された。2年生のとき、ついに大東文化一を撃破。花園の土を踏んだ。ただ、リザーブだった岩代さんの出番はなかった。

関東大学リーグ戦で強豪校だった東海大学に進学。だが、入学の年は2部に降格したとさだめた。リーグ戦4位までが出場する大学

選手権を目指し挑戦が始まった。2年次で1部に復帰。2002年、4年のときは主将を任せ、胸の内に全国優勝を秘め、練習を強化した。初の大学選手権出場を果たし、歴史を刻んだ。この年を原点に後輩たちは07年からリーグ4連覇、18年から同5連覇を成し遂げている。

卒業後はトップリーグの雄、ヤマハ発動機に入社。「スポーツで挑戦とあきらめないことの大切さを学び、人生に生きていく」と。夢は「息子が代表候補が4人。夢は「息子が引退。高校卒業後に交際していたらむばかりだ。

この人

そのころの菅生は毎年のように大東文化一



ラグビーで鍛えられたたくましい体は今も健在。代表候補が4人。夢は「息子が引退。高校卒業後に交際していたらむばかりだ。

同窓生の公葉さんと結婚。あきる野市にある公葉さんの実家が経営する会社に身を置き、現在は関連会社の㈱ユース・ライン代表取締役を務め、運送、道路整備、ビルメンテナンスなどの事業を展開する。

センバツへ前進 秋季大会で選手の成長目の当たりに

鍛えの冬に選手支える 野球部女子マネージャー



笑顔大切に宿谷さん、山田さん、井上さん(左から)

野球部は秋季東京大会決勝で、二松学舎大

場となれば2年ぶり5回目(夏は4回出場)。鍛えの冬に臨む。選手を支えるマネージャーにとっても戦いの冬になる。「試合ごとに強くなっていくのが私たちにもわかりました。優勝が決まったときは本当にうれしかった」と秋季大会を振り返るの

冬場の大事な仕事は食事トレーニング。選手の体づくりに向け、食事の量を適正に増やすことだ。3度の食事以外ににぎりなどの補食をつくり、しっかりと食べているかを管理する。おにぎりなら100個握ることもある。プロテインもつける。食器や容器洗いも役割だ。

ボールや用具の管理、部室や周辺道路の清掃も行なっている。野球部を訪ねて来た人